

随 筆

年寄りの冷や水

小林 英敏

毎日暑い日が続いていますが、皆様お元気ですか。今年は猛暑が始まった7月中旬にバイカル湖に近いイルクーツクに行っていました。シベリア抑留の人たちが建設したイルクーツク近くのシベリア鉄道に乗り、抑留日本人記念碑に参拝するのが目的です。たまたま偶然に50年ほど前に泊まったホテルと同じホテルに宿泊しました。あの時は1ルーブルが約100円で（現在は1ルーブル1.63円）、一回の海外旅行の持ち出し可能な外貨が50万円ぐらいでした。もちろん、まるで足らず闇ドル、1ドル500円以上しました、のお世話になりました。横浜からナホトカに船で渡り2日かけてナホトカまで、そこからハバロフスクまでシベリア鉄道で30時間。そこからは飛行機にてイルクーツク、タシケント、バクーに飛びました。バクーから列車の旅でトビリシ、エレバン、途中でチェチェンを通過しトルコ国境へ。更に飛行機で黒海を越えてキエフ、モスクワ、ハバロフスクを経由して新潟に到着。全行程20日ぐらいだったでしょうか。中学3年から5年間の受験勉強を乗り越えた結果の医学部合格のお祝いだったのかな。どこまでも続く満蒙の山々、流れているのかどうかも分からない水を満々と湛えた幅2kmを越えるアムール川（黒竜江）、チムールも見たトルキスタンの中心地タシケントの土壁の家々とモザイクタイルのタシケント門、七色に輝くカスピ海沿岸の町バクー、まるでヨーロッパのようなトビリシ（今はジョージアといいます）そしてエレバン、映画で見た通りの一面のひまわり畑のキエフ郊外そこで昼寝をしている農民たち、モスクワのクレムリン近くのおもちゃのようなワシリイ大聖堂、遠くから眺めたレーニンのお人形、いまだに忘れられません。それらのなかでイルクーツクのはずれにあった日本人墓地はまるで忘れ去られたように荒れ果てていました。森元首相の尽力で日本人墓地は日本に移設され記念碑が代りに建てられたと聞きました。やはりどことなくさみしい殺風景な思いが記念碑の周りに漂っていました。名古屋で気温37度を越えたとき20度そこそこ涼しいを通り越して寒い。義父はここで数年を過ごした、どんな冬だったのか、ついに聞くことはありませんでした。

教科書や歴史書でみたトルキスタンのオアシス、ガンダーラの遺跡、石窟寺

院群と石仏たちまたいつか来たいと思いつつ旅をしてきました。愛する歴史をひとまず置いてそれなりに一生懸命働いてきました。定年後気が付いてみたらトルキスタンは危険すぎていくことが出来ません。歴史の落穂ひろいのようなアウシュビッツ、ネボ山、エルサレム、イルクーツクと廻った旅をひとまず休憩して、本格的に歴史にのめりこむ前提として、どうしてもこれだけはクリアーしておきたい京都大学文学部入学を目指し、今年から受験勉強を始めました。大学院に直接入ってもいいようなものですがなんとなく心がもやもやする。歴史を専門にするためのスタートラインにすら立てなかった私ですが、資格はあったのだということを確認だけはしておかないと気が済まない。18歳の時、受験すれば当然合格だという自信はありますが、やはり合格を確認しておきたい。試験科目は現代文、古典、英語、数学、世界史、日本史、基礎化学、基礎生物を選択しました。ま、古典、歴史は全く問題ない。数学、現代文、生物は、まずまずであろう。気合を入れて勉強するのは英語、化学ぐらいだな。といっても英語は簡単だし難しい単語もないということでセンター試験と京大個別入試の模擬試験を受けてきました。周りはまず孫といった年齢の子供たちの中で場違いなおじいさんが一人。人生をかけている若者の中に夢を追っている老人が一人か、なかなか楽しいシチュエーションではありました。状況は楽しかったのですが試験の内容は楽しいどころではありません。わー漢字が書けない、読めない、その上長い長い現代文が読み切れない、古典は、助動詞の活用ですらわからないということで国語は沈没。英語も時間内に読み終わらない。なんて簡単な英語なんだと思っていたのは間違いで、英語が問題なのではなく、問題は時間であったということでした。数学はガロアの群論がわかったと喜んでいてこの私が二けたの計算間違いをしてしまう体たらく。その上、公式を全部忘れてることに気が付きました。三角関数もベクトルも複素数も完全に空っぽ状態、剰余の定理も頭が真っ白（なんで群論がわかるの、それで？）、中学のころからあんなに得意であった微積ですら？？数学は零点？！歴史は満点を目指している場合ではなく化学、生物は問題すら、『よーわからん、この人何言ってるの』という状態。ということで要するに模擬試験は惨敗に終わったということです。

そんなことでは小林君はめげません。残り6か月持てる時間を受験勉強にささげることになりました。なにしろ受験時代には毎日すべての時間受験勉強をしていたのですから。毎日起きてから寝るまで行きたくもない医学部に合格するために物理以外の受験科目だけをひたすら勉強しました。自分でも能力がなさそうだとはいえず気づいていましたので時間をかけたということです。で

も、今となってはなかなか受験勉強だけに没頭というわけにもいかないのです。朝コーヒーを淹れる、仕事に出かけたら、一応仕事はある。何せ、亭主関白なものだから、熱帯魚の水槽を掃除しなければ、いろんな付き合いもある。余った時間はごく僅かしかない。その上、根気が続かない、誘惑が多い、その上記憶力がない（悪いではなく）。

思い返してみれば、5年間の受験勉強は私に何を残してくれたのでしょうか。勉強した知識はすっかり消え去ってしまいました。残ったものは、やろうと思えばあれだけのことがやれたという思い出と自信。思い返してみれば、青春の一時期に何を思い煩うことなく思いっきり勉強させてくれた両親には感謝しなくてはならないでしょう。自分の意にそぐわないことで、ずいぶんと両親とは言い合いもしましたし、恨んだこともありました。やりたくもないことを成就させるために、あれだけ努力できた小林君は今度はやりたいことをやる。ずいぶん脳力も体力も気力も落ちてきましたが、大学入試の次は大学院に挑戦です。歴史の論文を一編上梓しなければなりません。楽しい時間が続きます。人生をかけている若者たちは、こんな夢を追っているご老人に負けてはいけませんよ。

（藤田保健衛生大学 医学部教授）